

平成 28 年 10 月 1 日

関係各位

JICA 安全管理部

テロ対策

～テロの予防策。万が一テロに遭遇した場合の対応について～

【ポイント】

■爆弾テロ、無差別（乱射）テロ

- ・テロのリスクの高い場所への立ち入り回避、立ち入り時間の短縮
- ・テロに遭遇した場合の行動三原則は、”Run、Hide、Fight”

■個人標的型テロ

- ・日常の行動のパターン化を避ける、すきを見せない

1. 爆弾テロ、無差別（乱射）テロの予防策

- (1) テロ関連情報の収集・分析及び共有
- (2) テロのリスクの高い場所への立ち入り回避
 - レストラン、クラブ、ショッピングセンター、観光スポット等多数の人が集まる場所
 - 空港、駅、バスターミナル、港湾など公共交通関係施設
 - 教会、モスクなど宗教関連施設
 - 欧米権益関連施設(米国、英国、イスラエル等の公館、企業)、治安関連施設(軍・警察等)
- (3) (立ち入らざるを得ない場合) 立ち入り時間の短縮
- (4) 現場付近の異常な雰囲気のカッチ
- (5) 付近での不審者・不審物件に注意を払う

2. 爆弾テロ、無差別（乱射）テロに遭遇した場合

あらゆる手段・方法を使い、自分の生命を守る。無抵抗で、その場に留まっても、生命は守れません。テロに遭遇した場合の行動三原則は、“Run、Hide、Fight” です。

- (1) “Run” (その場から離脱する。ただし、表玄関、裏口等はテロリストが押さえている可能性が高いため、別ルートの脱出を検討して、冷静に行動する)
- (2) ” Hide” (身を隠す。テロリストの目につかないようにする。例として、ベッドの下、カーテンの裏、部屋・浴室の通気口、エレベーターの天井裏スペースなど)
- (3) ” Fight” (テロリストを倒すのではなく、あくまでも相手と安全な距離を確保するために、戦う姿勢を取ること。銃器使用の場合、近距離では命中確率が高いが、

10m以上距離を取れば外れる可能性が高まる)

① 爆弾テロに遭遇した場合：

- 爆発音がしたら・・・伏せる、カバンや衣服などで頭部を防護する。また、耳を保護し、直近の遮蔽物に身を隠す。
- ガラス破片が多い場所から離れる
- 現場から遠ざかる(おとり爆発後の連続爆発もあり得る)

② 無差別(乱射)テロに遭遇した場合：

- けん銃の発射音が聞こえたら・・・(姿勢を低く、地面に伏せる、けん銃の音が遠い～とにかく現場から離れる)
- 近くの遮蔽物に身を隠す
- 現場から離脱できない場合・・・まず深呼吸し冷静になり、状況から判断して生命を守るためベストの方法を選択し実行する。

3. 個人標的型テロの予防策(日常の行動における留意事項)

日常の行動において留意すべき点は、国際テロの標的(ターゲット)とならないことです。以下の点について留意のうえ行動をお願いします。

(1) 時間的余裕を持った行動

- 出勤、帰宅の際、時間的余裕がない場合は、警戒心も働かせることなく、直線的な行動(出勤・帰宅路の定例化、時間のパターン化)となってしまう、テロリストが狙いやすい対象として、行動を捕捉されてしまう。時間的余裕を持って、パターン化を避けるべき。

(2) 日常的に点検行動を実施

- 出勤時、帰宅時ともに、周囲を警戒(建物の上階、踊り場等から)、10分間以上、建物の周囲に乗車して駐車する車両(バイクも含む)、たむろする者をチェックする(運転手や門番に行わせてもよい)。また、一旦建物の外に出て、20~30m歩き、後方から追尾してこないか点検をする。
- また、通勤路周辺の地理に精通して、商店等の表口から入り裏口に抜けるような点検行動を実施すること。
- このほか、追尾してくる者に対しては、デジタルカメラ等で撮影(強制発光させる)して、警戒しているということを周囲に分からせることが大事。

(3) 外で隙を見せない行動

- 外で行動する場合、警戒心を常に働かせる。携帯電話、スマートフォンの操作は行わない。知人等とともに歩いていても、会話に夢中となるようなことはせず、周囲を警戒すること。

(4) カウンターパートの活用

- 常時でなくてもよいが、配属先の車両による送迎を依頼して、通勤のパタ

ーン化を避けること。また、配属先の同僚等との通勤・帰宅に心がける（ただし、同僚と一緒にいても、狙われるおそれはある）。

(5) 住居、職場周辺での顔見知りを多く作り、友好関係を構築

- 積極的に、近隣者に挨拶、会話をし、住居、職場周辺での不審者（長時間付近に駐車している者、たむろしている者）の発見を依頼しておく。また、退避できる場所を数多く作っておくことが大事。

4. 個人標的型テロに遭遇した場合

- (1) 歩行中テロリストに襲撃された場合、けん銃の命中する確率を低くするため、例えば、車道に出て、大声を出し、周囲に注目されるようにし、狙いを定めづらいうようにするために、車の間をジグザグに走り逃げる。
- (2) 建物の中で狙われた場合、表玄関や非常口は待ち伏せされている可能性があるため、上のフロアに向けて背を低くして走り、ベランダやトイレの窓から脱出するようにする。
- (3) 車両走行中襲撃された場合、車両を停止させないことが重要。渋滞赤信号であっても、車両を移動する工夫を行う。

以上